

アウトリーチ（訪問支援）研修報告

平成25年10月7日（月）～18日（金）

（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
札幌市若者支援総合センター

＜実地研修先＞

* 北陸青少年自立援助センター はぐれ雲



* 高岡地域若者サポートステーション



北陸青少年自立援助センター はぐれ雲

～農業をしながら不登校・引きこもりの子どもたちと共同生活～

基本は

- ▶ 早起き
- ▶ 食事
- ▶ 作業

はぐれ雲での生活

《1日の流れ》

6:00 起床・散歩
朝食準備(当番)
6:50 朝食・清掃
8:00 勉強会
9:30 作業
12:00 昼食
13:30 作業・スポーツ活動
風呂
夕食準備(当番)
18:00 夕食

以降、自由時間

*消灯時間は特になく、他人に迷惑をかけない、という約束がある。

基本的な
「生活リズム」
を身に付ける

《入寮後》

主に農作業を行う⇒作業組

生活リズムを整える

自立への第一歩

地域の学校に通う
⇒通学組

アルバイトとして働く⇒バイト組

主な活動内容



～その他～

- ・ソフトボール交流大会
- ・マラソン大会参加（町内会と合同）
- ・アルバイト（食堂・電球交換など）
- ・畑作業（さつまいも収穫等）
- ・薪割り
- ・寮内大掃除

etc

「はぐれ雲」での生活で学んだこと、感じたこと . . .

- *他者を尊重し、思いやりのある行動が多く見られた
⇒これまでの経緯（苦勞）があるだろうが、自己中心的な言動は見られなかった。
- *スタッフのかかわり方
⇒近所（親戚）のお兄さん、お姉さんの存在。
⇒どの場面でも多くの「声掛け」がある。
- *先輩の背中を見て育つ
⇒作業・通学・アルバイト（働く）というステップアップしていく先輩を身近で
みることができ、今後の目標が見える。
- *規律正しい生活を送ること・太陽の下で作業、スポーツをすることが心の成長
スピードを早める。

高岡地域若者サポートステーション

利用の流れ

STEP 1

相談

STEP 2

カウンセリング

STEP 3

サポートプログラム

《サポートプログラム》

交流体験

- ・ 定期的に通う（通所相談）
- ・ 同じ経験を持つ仲間とのグループ活動

仕事体験

- ・ 合宿型生活訓練・職業訓練に参加する
- ・ 職場見学や就業体験を試みる

就職活動

- ・ ハローワークの求人検索、職業紹介を利用する
- ・ 面接トレーニングなど、各種セミナーに参加する

具体例

- ・ 清掃ボランティア ・ パソコン教室 ・ スポーツ活動
- ・ 女子会（茶話会） ・ 体力強化 など ・ ・ ・ ・ ・

高岡地域若者サポートステーション

【実地研修内容①】

▶高岡地区学校連携（学校訪問）に同行

* 伏木高等学校

- ・ 高岡地域若者サポートステーション PR
- ・ 生徒情報（就職、進学率、不登校生徒等）の収集
⇒ 不登校生徒が今年度にはいたが、他校へ転入した

* 高岡工芸高等学校

- ・ 高岡地域若者サポートステーション PR
- ・ 生徒情報（就職、進学率、不登校生徒等）の収集
⇒ 卒業生の情報～10年前に卒業したが、今はニート状態
（在校生の弟からの情報）
⇒ 学校側は弟を通じてつながろうと試みているが・・・

《まとめ》

第一印象は、学校の壁は高いな・・・です。不登校・ニートの生徒、卒業生の情報を持っていながら、個人情報なので・・・とそれ以上の情報、つながることができないのはもどかしいと思った。

高校に籍を置いている間だけではなく、進学・就職して、つまりいたときにサポートがある！と利用してもらえればいい。そのためには学校・保護者とのつながり、協力が欠かせない。（学校説明会・父母会などでも告知できるようにアポを取っていたので参考にしたい）⇒ 長期的なプランで、周知・利用に結び付ける
⇒（中退阻止ではなく、中退後、進路未決定の生徒の利用促進）

高岡地域若者サポートステーション

【実地研修内容②】

▶アウトリーチ（訪問支援）への同行

*初めてアウトリーチを行う家庭に同行させていただいた。

本人：19歳男性（両親・第2名）

*両親とはサポステで面談を行った。（4回）

*引きこもりの原因～高校1年生時になじめず不登校、引きこもりに
など、面談での情報を教えていただき、訪問した。

《まとめ》

保護者は本人にサポステスタッフが訪問することは伝えてなかった。本人には会えなかったが、家庭の中に入って得られる情報収集の方法を学べた。（リビングにあるDVD、ペットとの関係など）訪問したことで家族以外の人が入ったという空気・いつもとは違った雰囲気を感じてもらえただけでも今後につながる第一歩となると聞いた。訪問後の本人の変化（スタッフが訪問したことの反応、両親への態度、食事を取ったかなどの細かいこと等）を保護者から次回の面談で聞き（プラスの面・マイナスの面）、今後の参考にするとのこと。本人に会えるまでの過程も経験したかったが、札幌のスタッフの経験を聞き、参考にしたいと思う。

実地研修後



「自立生活体験事業」 ～ 脱・自分チャレンジ ～

- * 〈実家暮らし〉だから、あと一步踏み出す勇気が出ないのでは？
- * 過酷な生活（体験）を克服できればもう一步先に進めるのでは？



〈スタッフからの挑戦状〉として

- ◆第一乃挑戦◆ まずは一步を踏み出そう！！
 - ・座禅 ・職場見学（登山） ・登山
- ◆第二乃挑戦◆ 新しい自分に出会おう！！
 - ・3泊4日 集団合宿生活（自然体験・ロングハイキングほか）
 - ・スタッフとのガチンコトーク（サポステを利用して・・・ほか）
 - ・おしゃべり塾（家族の会に参加）
☆家族の会～引きこもり、ニートの子どもの持つ保護者の会
- ◆第三乃挑戦◆ 1人暮らし体験
 - ・ワンルームマンションで2ヶ月間1人暮らし
 - ・雪まつりへアルバイト（就労体験）

研修生⑬

山武郡市広域行政組合
山武郡市教育相談センター

アウトリーチ研修報告

山武郡市広域行政組合教育委員会
山武郡市教育相談センター

玉野市教育サポートセンター